

派遣留学生帰国報告書

| | |
|-----------------|----------|
| 記入日 | 2022/5/5 |
| 所属学部・ 研究科・学府 | 国際教養学部 |
| 所属学科・専攻 | 国際教養学科 |

1. 留学先について

| | | | | | | | | | | | | |
|----------|------------------------------|--------------------------------|----------|--------------------------|--------------|--------------------------|-----------|-------------------------------|----|--------------------------|------|--------------------------|
| 留学先大学名 | University of Cincinnati | | | | | | | | | | | |
| 留学先所属学部等 | College of Arts and Science | | | | | | | | | | | |
| 留学期間 | 出発日 | 2021/8/13 | 入学日 | 2021/8/23 | 修了日 | 2022/4/28 | 帰国日 | 2022/5/5 | | | | |
| 住居 | 大学(紹介)の寮・アパート | <input type="checkbox"/> | 民間アパート | <input type="checkbox"/> | その他() | | | | | | | |
| | 通学時間 | 5分 | | | | On campus | | | | | | |
| | 通学方法 | 徒歩 | | | | | | | | | | |
| | 居室スペース | <input type="checkbox"/> | 個室 | (5) | 人部屋 | その他(個室内にバス・トイレ有り) | | | | | | |
| | 共有スペース | <input type="checkbox"/> | 完全個室 | <input type="checkbox"/> | キッチン | <input type="checkbox"/> | トイレ | <input type="checkbox"/> | バス | <input type="checkbox"/> | リビング | <input type="checkbox"/> |
| 食事 | 自炊 | 40 % | 学食 | 40 % | 外食 | 10 % | その他 () % | | | | | |
| 保険 | 海外旅行保険(名称) | JTBTータルサポートプログラム:プランI | | | | | | | | | | |
| | 留学先国・大学指定 の保険(名称) | なし | | | | | | <input type="checkbox"/> 加入必須 | | | | |
| | その他 | JTBTの保険の加入内容を証明したため、UCの保険加入は免除 | | | | | | | | | | |
| 渡航ルート | ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車) | | | | | | | | | | | |
| | 成田(飛行機) | | シカゴ(飛行機) | | シンシナティ(シャトル) | | | | | | | |

2. 留学にかかった費用について

| | | | | | | | |
|------|-------------|-------------|----------|-----------|-----|---|---|
| 総費用 | 2,709,000 円 | | | | | | |
| 出どころ | | | | | | | |
| 自費 | 貯金 | 300,000 円 | アルバイト | 200,000 円 | その他 | 円 | |
| 援助 | 親 | 2,209,000 円 | 家族・親戚 | 円 | その他 | 円 | |
| 奨学金 | JASSO | 円 | その他名称() | 円 | | | |
| その他 | その他() | | | | | | 円 |

2-1. お金の管理方法

| | | | | |
|-----|------|-----------|----------------------|---|
| 渡航時 | 現金 | 130,000 円 | その他() | 円 |
| 留学中 | 海外送金 | キャッシング | その他(全額、クレジットカードで。) | |

2-2. 各費用の支払い方法

| | |
|-----------|-------------|
| 大学に払った費用 | クレジットカード |
| 住居にかかった費用 | クレジットカード、現金 |
| その他 | |

2-3. 内訳

| 費目 | 外貨金額 | | 円貨金額 | |
|-----------------------------------|------|--------|-----------|---|
| | 通貨単位 | | | |
| 渡航費(往復) | ドル | 2,420 | 300,000 | 円 |
| JTBトータルサポートプログラム(海外旅行保険・危機管理サービス) | | | 130,000 | 円 |
| その他の保険料 | | | 0 | 円 |
| 査証・在留許可証 | ドル | 160 | 20,000 | 円 |
| 住居 | ドル | 10,680 | 1,320,000 | 円 |
| 光熱費 | ドル | 153 | 19,000 | 円 |
| 食費 | | | 480,000 | 円 |
| 通学に要する交通費 | | | 0 | 円 |
| 教科書、教材費 | ドル | 184 | 22,000 | 円 |
| その他大学に支払った経費 | ドル | 1,579 | 190,000 | 円 |
| その他 (コロナ関連) | | | 30,000 | 円 |
| その他 (旅費) | ドル | 300 | 39,000 | 円 |
| その他 (予防接種費用) | ドル | 1,329 | 159,000 | 円 |
| その他 () | | | | 円 |
| その他 () | | | | 円 |

3. 学業面

| 履修科目名 | 種類 ^{ex.正規、聴講} | 単位数 | 単位互換認定申請の有無 | | | |
|--|------------------------|-----|-------------|---|---|---|
| | | | | 有 | ○ | 無 |
| 1 Foundation of Academic Oral Communication | 正規 | 3 | | 有 | ○ | 無 |
| 2 Introduction to English Composition | 正規 | 3 | | 有 | ○ | 無 |
| 3 Introduction to Public Relations | 正規 | 3 | ○ | 有 | | 無 |
| 4 Introduction to Communication Theory | 正規 | 3 | ○ | 有 | | 無 |
| 5 Introduction to Organizational Communication | 正規 | 3 | ○ | 有 | | 無 |
| 6 Communication in Problem Solving | 正規 | 3 | ○ | 有 | | 無 |
| 7 Introduction to Public Speech | 正規 | 3 | ○ | 有 | | 無 |
| 8 Communication and Popular Culture | 正規 | 3 | ○ | 有 | | 無 |
| 9 Introduction to Interpersonal Communication | 正規 | 3 | ○ | 有 | | 無 |
| 10 | | | | 有 | | 無 |

3-1. 授業科目の選択、登録方法

千葉大学での学部が国際教養学部であるため、コミュニケーションメジャーについての知識はほぼないに等しい状態だったため、Spring Semesterに関してはIntroductionなどの文字から授業を選択していました。しかし、その授業のレベルに関しては授業科目の横にある四桁の数字の最初の文字によって決められるため、Introductionと謳ってはいますが実際には同じメジャーの3,4年生ばかりが受講しているような専門性の高いものもいくつかあったため、そこには注意が必要だったと思います。

履修登録はCatalystという千葉大学というポータルにあたるようなサービスで行います。留学生は履修登録開始期間が遅いため、受講が既に締め切られているものもありました。基本的には空きがある授業を選択するかWait listで空きが出るのを待つ形になります。私の時は、Full Timeの学生は12単位以上(およそ授業4つ分)の対面科目を受講する必要がある上に、受講人数の関係で希望の科目が履修できないこともあり、希望授業の組み方には難儀しました。

3-2. 授業内容、方法に関して

上のリストにあるうち7科目が対面形式、2科目が完全オンラインで行われていました。コミュニケーションメジャーの授業ではコミュニケーションの基盤となる理論についてや、人間関係や課題解決に効果的なコミュニケーション方法、プレゼンの仕方など、幅広い内容について学びました。授業形態としては、主に話を聞くことがメインの講義形式の授業、ブレインストーミングが頻繁に行われる授業、グループワークを通して期末にディスカッションや最終プレゼンが行われるものもありました。ほとんどの授業において中間及び期末にテストがあること、週一回程度のペースで授業やテキストの内容の理解度を測るためのクイズが用意されていたことが共通していました。クイズはほぼオンラインで行われますが、テストに関しては対面形式で行われるものもあります。オンラインで課題を提出する際はCanvasという千葉大学のMoodleにあたるサービスを通して行われます。オンラインでミーティングがある場合にはZoomまたはWebexというツールが多く使われるようです。

リストの1番と2番がESLと呼ばれる、英語が第二言語の学生に向けての英語学習に関する授業で、こちらでもプレゼンのほか英作文について学びました。しかし正直あまり収穫が無かったという印象が強かったです。アメリカの授業形態に慣れたり、英語で授業を聞く、意見を伝えるという点では有用だと思いますが、特にEnglish Compositionの授業については千葉大学のWritingやAcademic Writingの授業で学んだことの反復になると感じました。引用の仕方、フォーマットの設定の仕方など基本的な情報について学んでいれば受講する必要はあまりないかな、という印象でした。

3-3. 語学力について

渡航前に受験したTOEFL iBTでは80点でしたが、それほど出来が良かったという印象は無かったためこのスコアに関しては疑問が残ります。また、プログラム応募の際には使用できませんでしたが実用英語技能検定準一級を保持しています。そのような状態で渡航しましたが、渡航直後は特に語学力の無さは大きな障害となりました。下で詳細に書きますが渡航後に再び住居を自分で契約したり、授業についていたりすること、また交友関係を広げる・深めることなどに関して、語学力の無さには苦労しました。これに関しては場数を踏むことが自分の中では重要だったと思います。講義を何度も聞いていくこと、友人と何度も会話をするによって徐々にスピーキングやリスニングに関しては慣れることができると思います。講義に関しては、Spring Semesterの後半では授業の流れについていけなくなるようなことはあまり無かったと感じています。話すことに関しては、日常会話程度はそれほど支障はないですが、授業内で専門的な内容について議論をする際には、事前に準備しなければ不安が残るような状態です。発音に関しては普段からアメリカ英語に近づけるような努力(具体的にはネイティブスピーカーに発音の仕方を訊ねたり、何回も一人で声に出して反復練習したりすること)をしたため、少しはそれらしくなったのではないかと思います。といっても、発音に関してはインド人やスペイン人などは普通にアクセントがあるまま話していて、それで何ら問題がないようなので気にしすぎる必要はないとも感じました。また、留学中は日本の友達と電話をしたり現地でも日本人とも遊びに行ったりしていましたが、それが語学力の成長の妨げになったとは特に感じていません。さすがに日本人とばかり関わるのは問題だと思いますが、特に現地で育った日本語も英語もネイティブレベルの人たちに発音や言葉の意味の違いについて教えてもらったことは大変有用でした。彼ら、彼女らのバックグラウンドについても非常に興味深いと感じました。リーディング、ライティングに関してもやはり数をこなしたことが功を奏したようで、渡航前よりもスピードが上がったという実感があります。ただ、語彙に関しては論文や専門書を読む際に見たこともないような単語が多く出てきたこともあったため多少苦労しました。

3-4. 図書館など学内施設について

学内施設に関して、不満な点などはほぼ無かったです。主に利用していたのは図書館とジムでした。図書館は平日はほぼ毎日授業後に行って課題をしたりテスト勉強をしたりしていました。金曜日と土曜日以外は深夜12時まで開いていて、電源やインターネット環境もあるため勉強をするには適した環境だと思います。一人で使用する際には基本的に騒がしい1階は避けて2階や3階の書架の奥にある席をよく利用していました。ジムはトレーニング器具などフィットネスのほかに、体育館、プール、クライミング設備等があり、授業の合間や図書館の利用後によく利用していました。派遣留学生を含むFull Timeの学生であれば学生証の提示で無料で使用できるため、使わない手はないと思います。

3-5. その他

学内のサービスでシャトルバスとNight Rideというものがあります。どちらもあまり利用したことがないため詳細についてはあまり分かりませんが、学生ならどちらも無料で利用できます。特にNight Rideは深夜2時くらいまで利用できるタクシーのようなサービスで、キャンパスからそれほど遠くない距離であれば夜遅くなった場合でも安全に移動できると思います。ただ、呼んでから多少時間がかかることが難点です。確かアプリかUCのホームページで申請できます。

4. 生活面

4-1. 住居について

渡航前に電話で契約した、キャンパスから徒歩20分程度との記載があった住居が実際は徒歩30分程度の距離にあった上に周辺の治安が良くなかったため、渡航後すぐに別の住居を探して契約をしました。家賃は比較的高めでしたが、キャンパスから近いうえにバスルームが個人の部屋に備えられている点が個人的に嬉しかったです。留学生生活を終えた上で、住居を検討する際にチェックすべき点は、価格、キャンパスからの距離、KrogerやTargetなどのスーパーマーケットからの距離、契約期間などだと考えます。住居・部屋の契約期間については12ヶ月であることが多く、帰国後に住んでいない無駄な家賃を払うこととなります。これを防ぐためには事前にSub leaseという、又貸しのようなシステムを行うことも契約内容によってはできますが、借りる人を探したり内見をしてもらったりするのに時間がかかるため、行う場合には早めに準備を行うことが必要となります。

4-2. 食生活について

朝食は調理がいらす手間がかからないものを授業前に食べ、昼食は学内のファストフードレストランで購入し、夕飯は自分で作ることが多かったです。自炊に関しては日本に住んでいた時からやっていたので抵抗はないつもりでしたが、購入できる食材が日本と大きく異なっていたためやる気が起きず、課題等も忙しかったためそれほど手の込んだものを作る機会はあまりなかったです。料理酒や味醂、片栗粉、味噌などといったものは車で行く距離のアジアンマーケットに行けば購入できるため、行く機会があれば買いだめすることはできると思います。日本食が食べたくなることは多々あったため友人にお願いして連れて行ってもらったことが何回かあります。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

学内は基本的にどこでもWi-Fiが利用できるため問題はありませんでした。SIMカードは渡航後に学内のInternational Officeで入手し、案内に従って契約しました。Mint Mobileというキャリアで、時々、接続に多少支障がありましたが値段はそれほど高くなかったため問題はありませんでした。キャンパス付近にAT&TやT Mobileといったキャリアもあるので選択肢は多いと思います。

4-4. 服装について

渡航したのは夏でしたが主に過ごす季節は秋から春にかけてなので、冬服が多いほうが良いと感じました。また、室内でもルームメイトがいる場合は空調の設定温度が共通であり、彼らが設定する温度は私たちにとっては低めであることが多いです。部屋着もしっかりと暖かめのものを用意するべきだったと感じています。また、日中とそれ以外で寒暖差が激しいことが多く、日によっても気温が大きく変化することが多いため、朝家を出る前に天気を見て服装を決める習慣ができました。

4-5. 健康管理について

偏りのない食事や頻繁に運動することを意識していたせいか体調を崩すことはありませんでした。私が渡航した時期での一番の懸念は新型コロナウイルス感染症でしたが、やはり友人や教授など感染したという話は頻繁に聞きました。学内でも2月くらいには屋内でのマスク着用義務が撤廃されたことや、そもそも街中やレストラン、商業施設等以外ではマスクをつけている人はほぼいないことから分かる通り、自己責任という印象が強かったです。

4-6. 保険、危機管理サービスの利用について

幸運にも利用することはありませんでした。留学生は原則としてUCが提供する保険プランに加入することが必須ですが、保障内容などの条件を満たすことを証明すれば免除の対象となります。千葉大学のトータルサポートプログラムとともに加入するには費用が嵩むため、トータルサポートプログラムが条件を満たすことをなんとか証明して免除されました。しかしそれにより、渡航後に不足分を打たなければいけない予防接種に費用がかかりました。

4-7. 課外活動について

日本の文化に興味がある人が参加するサークルのようなものに参加していました。そこで日本語を勉強している人たちと友人になることで、個人的に英語を教えてもらい、逆に日本語を教えるというようなことをよくしていました。その団体の活動というよりは、交友関係を広げるために参加していた印象があります。交友関係を広げるという点では、留学生向けのイベントに参加したり、招待があればパーティーに行ったりもしました。色々なバックグラウンドを持つ人と関わることができたため、興味深い経験になりました。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

Indiana UniversityやXavir Universityの学生が多いパーティーに参加したことがあります。中にはその後に何度か一緒にスキーをしに行った人たちもいました。また、友人にお願いして教会に連れて行ってもらったこともありました。教会には一度しか行きませんでした。日本人には無いキリスト教圏の文化を感じることができて、非常にいい経験だったと感じています。

4-9. 日本から持参してよかったもの

洗って繰り返し使えるような箸やスリッパ、ルーズリーフ、筆記用具、シャンプーやボディーソープなど使い慣れたものを持っていくことでストレスを軽減して生活できたと感じています。アメリカでも調達できますが、特にルーズリーフやノートなどは紙の質があまり良くないと感じました。シャープペンシルの芯は0.5mm以下を見たことがないため0.3mmを使用している私は日本から持ってくるべきでした。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

英単語帳を持っていきましたが、それ単独で勉強する時間はあまりなかったためほとんど使用しませんでした。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

知らない人とも会話をする文化があるようでした。エレベーター内でおやすみなさいと言われたり、道を歩いているときに服装や髪型などを褒められることがよくありました。こういった文化は言われた方も気持ちがいいため素晴らしいと思いました。しかし時間や予定にルーズなことも多く、待ち合わせに遅刻したり前に話していた予定について完全に忘れられているなどということもありました。ただ、そこまで気になるようなことはありませんでした。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

新型コロナウイルス感染症の懸念から遠出は控えていましたが、帰国する際に経由するシカゴに一泊して、ダウントウンを観光してきました。Millenium ParkやWillis Towerなど有名な観光地を周ったり、名物のホットドッグやピザ、生牡蠣などを食べたりしました。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

ジムで筋トレ、クライミング、キャッチボールなど運動をすることや、友人やルームメイトとご飯を食べに行ったり遊びに行ったりすることで気分転換をしていました。特にルームメイトは、同じゲームを一緒にプレイしたり、実家を見せてもらったりしたことや、生活する上で困ったことを手伝ってくれたことなどで、時にストレスを感じることもあった生活の中で精神的にとっても支えになってくれるような存在でした。

5. その他

5-1. 留学先大学について

シンシナティ大学は学生数が多く、様々な人種や文化を持つ人がいるような環境でした。アメリカの大学に共通して言えることですがフットボールが盛んで、特に僕が留学していた年は全米2位に輝くなど凄まじい盛り上がりを見せていました。フットボールの試合で勝った日は路上で学生が騒いで祝福するなど、学生の大学愛が強い大学だと思えます。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

治安が最も懸念される点だと思うので、住居選びには慎重になることをお勧めします。シンシナティにはあまり遊ぶような場所がないため、交友関係を広げることも楽しい留学期間を送ることの手助けになるかと思えます。また、積極的に外に出て自分のコミュニティとは異なる所に飛び込んでみるのもいい経験になるかと思えます。人と関わることで色々と興味深い話が聞けますし、語学力の向上にもつながると思えます。それで失敗することもあるかもしれませんが、少なくとも私は、やらない後悔をするよりはいいと思えますし、その失敗もいい経験の一つだったと考えています。

また、2-3で高額な予防接種費用について言及しました。これについての詳細ですが、まずは渡航前に自分がこれまでにどの予防接種(結核など)を受けたことがあるか、日本の病院で検査してもらいます。その結果をシンシナティ大学に送り、それがアメリカに住むにあたって必要な予防接種の基準を満たしているか判断された上で、不足分については渡航後に段階を追って接種しなければならない、というものです。

4-6で言及したUCの保険に入っていたら費用は掛からなかったかもしれませんが、私の場合はお金を払わなければならなかったため、予想外の出費でした。他の派遣留学生も同様にUCの保険に入っておらず自費で払っていたため、(私とは接種したものの種類や値段は異なりましたが)見落としがちな出費になりうると思えます。

5-3. 留学を終えて

自分一人での海外経験がなく、右も左も分からないような状態で渡航したため、当初は様々なことで不安になることもありましたが、最終的にはなんとかなるようなことが多かったです。それには現地で知り合った人に恵まれていたということも大きかったです。また、英語力にさほど自信はありませんでしたが、それでも臆することなくコミュニケーションを図ることができるようになったことは大きな収穫でした。加えて、準備の段階を含めたコロナ禍での留学期間を通して、現地での医療体制についての調査やワクチン接種、検査など平時では行わないであろうことをすることでマネジメント能力を鍛えることができたと感じています。